

令和5年度「音楽Ⅰ」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
1	普通科・理数科	芸術	音楽Ⅰ	2	必修
教科書	『Mousa1』（教育芸術社）				
副教材	なし				

	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
学習の目標	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合	4	4	2
主な評価方法	実技試験		
		課題提出状況とその取組状況	
	単元の振り返りレポート、自己評価等		

履修上の注意及び学習のアドバイス	メリハリをつけ、音を楽しんで授業に参加しましょう。 課題の提出や期限、時間はしっかりと守りましょう。 日頃から音楽に興味、関心を持ち、様々なジャンルを聴いたり歌ったりと挑戦しましょう。 思いっきり自己表現を味わいましょう。
------------------	--

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの		
	Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる	Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考査	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	オリエンテーション 発声法	一年間の音楽の流れを伝える。 発声法の確認と体の使い方、喉のコントロールを学ぶ。		自分の体をコントロールすることの難しさを知ろう
	5	三線の弾き歌い	曲想と三線の音色や奏法との関わりを理解し、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して演奏する。		楽器のルーツや奏法を知り、他の楽器と比較してみよう
	6	イタリア語、ドイツ語の芸術歌唱	ベルカント唱法、ドイツ唱法、タンゲトリル、ファルセットなど様々な歌唱法を身につけ、曲想にあわせ表現を工夫する。		各国で発声法が違うのはなぜだろう
	7				
第2学期	9	合唱	合唱による表現の特徴を理解するとともに、それを生かして歌ったり、他者との調和を意識して歌ったりする技能を身に付け、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する。		美しくはハモるためにはどのような工夫が必要だろう
	10				
	11	ヴァイオリン実技	ヴァイオリンの音色や奏法との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫する。		ヴァイオリンのルーツとは、そしてなぜ高級品となったのか
	12				
第3学期	1	ギター弾き歌い	ギターの音色や奏法との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい奏法、弾き歌いなどの技能を身に付け、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫する。		ギターとヴァイオリン、三線など弦楽器の違いとは
	2				
	3	ミュージカル	曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する。		ミュージカルが世界中でロングラン公演をできるわけとは

※行事等で変更になる場合があります。

令和5年度「音楽Ⅱ」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
2	普通科	芸術	音楽Ⅱ	2	選択
教科書	『Mousa2』（教育芸術社）				
副教材	なし				

学習の目標	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
	<p>曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p>	<p>個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。</p>	<p>主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合	4	4	2
主な評価方法	実技試験		
		課題提出状況とその取組状況	
	単元の振り返りレポート、自己評価等		

履修上の注意及び学習のアドバイス	<p>メリハリをつけ、音を楽しんで授業に参加しましょう。 課題の提出や期限、時間はしっかりと守りましょう。 日頃から音楽に興味、関心を持ち、様々なジャンルを聴いたり歌ったりと挑戦しましょう。 思いっきり自己表現を味わいましょう。</p>
------------------	--

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの		
	<p>Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる</p>	<p>Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる</p>	<p>Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする</p>

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考査	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	オリエンテーション 発声法	一年間の音楽の流れを伝える。 曲想あつた発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、個性豊かに歌唱表現を創意工夫する。		普段の発音と歌唱時の発音の違いとは
	5	三線の弾き歌い	曲想と三線の音色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果を理解するとともに、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、個性豊かに器楽表現を創意工夫する。		ペンタトニックスケールの利点とは
	6	オペラのアリアに挑戦	曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果を理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、音楽のよさや美しさを深く味わって聴いたり、個性豊かに歌唱表現を創意工夫したりする。		オペラの結末は
	7				
第2学期	9	合唱	曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果を理解するとともに、他者との調和を意識して歌う技能を身に付け、個性豊かに歌唱表現を創意工夫する。		平均律と純正律を体感してみよう
	10				
	11	ヴァイオリン実技	曲想とヴァイオリンの音色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果を理解するとともに、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、個性豊かに器楽表現を創意工夫する。		オーケストラの魅力を知ろう
	12				
第3学期	1	ギター弾き歌い	曲想とギターの音色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果を理解するとともに、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、個性豊かに器楽表現を創意工夫する。		コードの仕組みを知ろう
	2				
	3	日本や諸外国の歌曲を歌おう	曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果を理解するとともに、音楽のよさや美しさを深く味わって聴いたり、個性豊かに歌唱表現を創意工夫したりする。		

※行事等で変更になる場合があります。

令和5年度「音楽Ⅲ」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
3	普通科	芸術	音楽Ⅲ	2	選択
教科書	『Joy of Music』（教育芸術社）				
副教材	なし				

学習の目標	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
	<p>曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について理解するとともに、創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p>	<p>音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫したり音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりすることができるようにする。</p>	<p>主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、音楽文化を尊重し、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合	1/3	1/3	2/3
主な評価方法	実技試験		
	課題提出状況とその取組状況		
	単元の振り返りレポート、自己評価等		

履修上の注意及び学習のアドバイス	<p>メリハリをつけ、音を楽しんで授業に参加しましょう。</p> <p>課題の提出や期限、時間はしっかりと守りましょう。</p> <p>日頃から音楽に興味、関心を持ち、様々なジャンルを聴いたり歌ったりと挑戦しましょう。</p> <p>思いっきり自己表現を味わいましょう。</p>
------------------	---

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの				
	二高ICEモデルとは？	Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる	Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする	

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考査	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	オリエンテーション 発声法 ソルフェージュ	一年間の音楽の流れを伝える。 発声練習やソルフェージュを通して歌唱の基礎的能力を高めるとともに、旋律を聴き取る能力、読譜の能力などを養い、楽曲を豊かに表現する力を培う。		
	5	課題研究 ピアノ実技 ギター実技 コード伴奏法 ソルフェージュ ハーモントレーニング	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について理解するとともに、創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫したり音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりすることができるようにする。		音楽の美しさとは
	6				
	7				
第2学期	9	課題研究 ピアノ実技 ギター実技 コード伴奏法 ソルフェージュ ハーモントレーニング	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について理解するとともに、創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫したり音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりすることができるようにする。		生きるうえでの音楽の必要性とは
	10				
	11				
	12	実技発表会	これまでの学習の成果を演奏会形式で発表する。		
第3学期	1				
	2				
	3				

※行事等に変更になる場合があります。

令和5年度「美術Ⅰ（普通科1～8組）」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
1	普通科（1～8組）	芸術	美術Ⅰ	2	必修
教科書	高校生の美術Ⅰ（日本文教出版）				
副教材					

	知識・技能（Ⅰ）	思考・判断・表現（Ⅱ）	学びに向かう力、人間性（Ⅲ）
学習の目標	芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。	創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

評価	知識・技能（Ⅰ）	思考・判断・表現（Ⅱ）	主体的に学習に取り組む態度（Ⅲ）
評価の割合			
主な評価方法	主に作品（途中段階、完成段階）で知識及び技能		
		エスキースとワークシートを基に主題の生成や構想、表現に向けた判断力等	
			進捗状況、グループワークの様子、自己評価等

履修上の注意及び学習のアドバイス	<p>楽しんで作品を制作しましょう。どのような課題に対しても失敗を恐れずにチャレンジすることが大切です。</p> <p>作品の細部に至るまで気を配り、丁寧な作業を心がけましょう。</p> <p>自分なりの工夫や独創的な発想を大切にして課題に取り組みましょう。</p> <p>道具は丁寧に取扱い、安全に注意しながら作業を進めましょう。</p> <p>作品やプリント提出については期限を厳守しましょう。</p>
------------------	---

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの		
二高ICEモデルとは？	Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる	Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考査	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	オリエンテーション 目のデッサン	<ul style="list-style-type: none"> 一年間の美術の流れを伝える。 鉛筆の特性を学び、画材を生かし、形のとらえ方、光と影、固有色の表現方法を創意工夫する。 		紙そのものの白さと作った白さの違いを感じ取ろう
	5	身近なもののデッサン	<ul style="list-style-type: none"> 目の豊かな表情に関心を持ち、構造を把握し、鉛筆や消しゴムなど描画材の特性を生かし、表現方法を工夫して描く。 		なぜこんな形をしているのだろう？どうすれば表現できるだろう
	6	日本画 (素材：紙皿、水干絵具、岩絵の具)	<ul style="list-style-type: none"> 身近なデザインに目を向け、生活とデザインの関わりを考え、目的や機能に応じた形や色彩、および社会性や客観性を意識して発想や構想をすることを学ぶ。 日本画の特徴について鑑賞と制作を通して学ぶ 		絵の具の特徴とモチーフの特徴をどう結びつけるか
	7	フレスコ画 (部分模写)	<ul style="list-style-type: none"> 西洋美術史における原始時代から印象主義までの流れを学び、美術表現と社会背景の関係性等について考察する。 材料について科学的に考察する 		フレスコ画でしかできない表現はなんだろう
第2学期	9	プロダクトデザイン エッグドロップ実験	<ul style="list-style-type: none"> 強度、効率性、美しさを併せ持つデザインをする 試行錯誤しながら、造形を高めていく デザインの鑑賞を通して、現代で活躍するデザイナーについて調べ、デザインによる課題解決の方法を考察する 		壊れないことと経済性の両立
	10	水彩画 瓶を描く	<ul style="list-style-type: none"> 基本形態の描写ができるようになる 観察を通して対象の本質を見極めるようになる 		透明を表現するにはどうすればいいか
	11	” ・解剖学講座	<ul style="list-style-type: none"> 自分や友人が制作した作品を鑑賞し、その良さや作者の意図と工夫を感じ取る。 人体デッサンを通して、人体の特徴を学ぶ 		2本足で立つということはどういうことか
	12	コマをつくる	<ul style="list-style-type: none"> 素材の美しさを理解する 機能を生かしたデザインをする 木の素材の特徴を生かした加工をする 		逆回転するコマをつくるにはどんな工夫があるか。なぜそうなるか
第3学期	1	模様をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 配色計画や画面構成について理解を深める。 ICTを活用したデザインをする 		連続模様を効果的につくるには。伝統技能との関連。
	2	科学のターニングポイント美術 の関係について探求する	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身の興味関心と科学をつなげ、理解する 		科学と芸術のつながりを理解し、表現する
	3	まとめ	学習内容を振り返る。美術館が担う社会的役割や美術に関係する職業（進路）について知り、これからの関わりについて考える。		自分のポートフォリオをつくる

※行事等で変更になる場合があります。

令和5年度「美術Ⅰ（理数科）」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
1	理数科	芸術	美術Ⅰ	2	必修
教科書	高校生の美術Ⅰ（日本文教出版）				
副教材					

	知識・技能（I）	思考・判断・表現（C）	学びに向かう力、人間性（E）
学習の目標	芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。	創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

評価	知識・技能（I）	思考・判断・表現（C）	主体的に学習に取り組む態度（E）
評価の割合			
主な評価方法	主に作品（途中段階、完成段階）で知識及び技能		
		エスキースとワークシートを基に主題の生成や構想、表現に向けた判断力等	
			進捗状況、グループワークの様子、自己評価等

履修上の注意及び学習のアドバイス	<p>楽しんで作品を制作しましょう。どのような課題に対しても失敗を恐れずにチャレンジすることが大切です。</p> <p>作品の細部に至るまで気を配り、丁寧な作業を心がけましょう。</p> <p>自分なりの工夫や独創的な発想を大切に課題に取り組みましょう。</p> <p>道具は丁寧に取扱い、安全に注意しながら作業を進めましょう。</p> <p>作品やプリント提出については期限を厳守しましょう。</p>
------------------	---

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの		
	二高ICEモデルとは？	Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考査	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	オリエンテーション 目のデッサン	<ul style="list-style-type: none"> 一年間の美術の流れを伝える。 鉛筆の特性を学び、画材を生かし、形のとらえ方、光と影、固有色の表現方法を創意工夫する。 		紙そのものの白さと作った白さの違いを感じ取ろう
	5	身近なもののデッサン	<ul style="list-style-type: none"> 目の豊かな表情に関心を持ち、構造を把握し、鉛筆や消しゴムなど描画材の特性を生かし、表現方法を工夫して描く。 		なぜこんな形をしているのだろうか？どうすれば表現できるだろう
	6	日本画 (素材：紙皿、水干絵具、岩絵の具)	<ul style="list-style-type: none"> 身近なデザインに目を向け、生活とデザインの間わりを考え、目的や機能に応じた形や色彩、および社会性や客観性を意識して発想や構想をすることを学ぶ。 日本画の特徴について鑑賞と制作を通して学ぶ 		絵の具の特徴とモチーフの特徴をどう結びつけるか
	7	フレスコ画 (部分模写)	<ul style="list-style-type: none"> 西洋美術史における原始時代から印象主義までの流れを学び、美術表現と社会背景の関係性等について考察する。 材料について科学的に考察する 		フレスコ画でしかできない表現はなんだろう
第2学期	9	プロダクトデザイン 架け橋プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 強度、効率性、美しさを併せ持つデザインをする 試行錯誤しながら、造形を高めていく デザインの鑑賞を通して、現代で活躍するデザイナーについて調べ、デザインによる課題解決の方法を考察する 		壊れないことと経済性、デザイン性とは何か
	10	水彩画 瓶を描く	<ul style="list-style-type: none"> 基本形態の描写ができるようになる 観察を通して対象の本質を見極めるようになる 		透明を表現するにはどうすればいいか
	11	・解剖学講座	<ul style="list-style-type: none"> 自分や友人が制作した作品を鑑賞し、その良さや作者の意図と工夫を感じ取る。 人体デッサンを通して、人体の特徴を学ぶ 		2本足で立つということはどういうことか
	12	コマをつくる	<ul style="list-style-type: none"> 素材の美しさを理解する 機能を生かしたデザインをする 木の素材の特徴を生かした加工をする 		逆回転するコマをつくるにはどんな工夫があるか。なぜそうなるか
第3学期	1	模様をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 配色計画や画面構成について理解を深める。 ICTを活用したデザインをする 		連続模様を効果的につくるには。伝統技能との関連。
	2	科学のターニングポイント美術 の関係について探求する	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身の興味関心と科学をつなげ、理解する 		科学と芸術のつながりを理解し、表現する
	3	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容を振り返る。美術館が担う社会的役割や美術に関係する職業（進路）について知り、これからの関わりについて考える。 		自分のポートフォリオをつくる

※行事等で変更になる場合があります。

令和5年度「美術Ⅰ」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
1	美術科	芸術	美術Ⅰ	2	必修
教科書	高校性の美術1（日本文教出版）				
副教材					

学習の目標	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
	美術における各分野の基本的な概念について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身につけている。	美術における各分野の特質について理解するとともに、創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができる。	美術の鑑賞や表現を通して美術文化に関する理解を深め、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、心豊かな生活や社会を創造していく態度を身に付けている。

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合	3	4	3
主な評価方法	主に作品と振り返りの記述等で知識及び技術の最終の評価を行います。		主に作品と振り返りの記述等で知識及び技術の中間の評価を行います。
		エスキースとワークシートを基に主題の生成や構想、表現に向けた判断力等を評価します。	
			進捗状況、グループワークの様子、自己評価等をもとに絵画への関心・意欲・態度等を評価します。

履修上の注意及び学習のアドバイス	<p>①実習が中心の授業となります。指示された画材は各自で準備してください。専門の道具などは指導者の指示に従い、注意して手入れしてください。</p> <p>②授業以外にも制作時間を十分にとって、完成度を高めてください。</p> <p>③内容に応じて、他の専門科目と展開授業を行います。</p> <p>④制作終了時に講評会を行います。講評の際はメモを用意してください。</p> <p>⑤エスキースや資料集め、動画視聴等の予習が必要な場合があります。指示に従って事前準備をしてください。</p>
------------------	---

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの		
	二高ICEモデルとは？ Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる	Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考查	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	描画材（鉛筆、木炭）の準備と使用方法 木炭デッサン（ラポルト）	木炭デッサンの基礎演習を通して、形を修正しながら描き進める姿勢を養う。		見ること、描くことの意味を考えよう
	5	静物画（F15・油彩）	油絵の具の基本的な使い方、用具のメンテナンス等を学ぶ。		平面に空間を表現する意味を考えよう
	6				
	7	読書感想画	モダンテクニック等のを学び、表現の幅を広げるとともに作品の完成度（密度）を上げていく。		自分自身の心情と向き合い表現につなげよう
第2学期	9		油絵の具の基本的な使い方、用具のメンテナンス等を学ぶ。		
	10	技法研究（静物・油彩）			材料の特徴を活かし、平面に空間を表現する意味を考えよう
	11				
	12				
第3学期	1	大作（F30）制作	主題を生成し、テーマに合った表現を探究する		自己の作家性を育てよう
	2				
	3				

※行事等で変更になる場合があります。

令和5年度「美術Ⅱ」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
2	普通科	芸術	美術Ⅱ	2	選択
教科書	「美術2」光村図書				
副教材					

学習の目標	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
	表現と鑑賞の諸活動を通して、造形の要素の働きや全体のイメージなどで捉えることを理解し、説明できる。	発想や構想したことを基に意図に応じて技能を応用したり、工夫を繰り返したりして、独創的に表現することができる。	美術の生活や社会における役割や美術文化の創造的な側面などに気付き、主体的に関わることができる。

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合	3	4	3
主な評価方法	主に作品(途中段階、完成段階)で知識及び技能		
		エスキースやワークシートを基に、主題の生成や構想、表現に向けた判断力等	
			進捗状況、グループワークの様子、自己評価等

履修上の注意及び学習のアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に必要な画材は準備しますが、制作に必要な資料や材料があれば各自で準備して下さい。 ・Chromebookは作品制作や課題の提出、振り返りに取り組みます。毎時、持参して下さい。
------------------	---

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの		
	二高ICEモデルとは？ Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる	Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考査	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	「オリエンテーション」 【鑑賞】 「『推し作品』を語ろう」	印象に残った教科書に作品について、絵や言葉を使ってプレゼンテーションを行う。		「直感で感じた印象の根拠を、造形的な視点で説明できますか。」
	5	【表現・鑑賞】 絵画 「自画像～自分を表す色や形～」 ・人物を描く ・写真撮影の基本	自分自身と深く向き合い、感じ取ったことや考えた事から主題を生成し、色や形、構図を考え個性豊かで創造的な表現の構想をすることができる。		「自分を表す（自分らしい）色や形を見出していこう。」
	6	【鑑賞】 絵画 「『語る絵』の秘密」 ・絵に隠された謎を読み解く	描かれたものに着目しながら作品を読み解く鑑賞の手法を知り、見方や感じ方を深める。		「モチーフや人物（姿、仕草）に注目し、物語や寓意を読み解くことができる作品を探そう。」
	7	【表現・鑑賞】 デザイン 「学校（社会）を良くするデザイン」 ・トータルデザインを考える ・作家の生涯と作品「亀倉雄策」 ・問題解決のためのデザイン ・作家の手法「山中俊二」 ・椅子のデザイン	学校内にある「分かりづらい」「困った」を主題として見出し、解消するデザインプランの構想を練る。また、制作したものの効果を検証し、デザインの意味と役割を理解する。		「身近な「困った」で、色や形のかで解消されているものは？」 「デザインされた物の仕組みや用途・効果を分析しよう」
第2学期	9				
	10	【表現・鑑賞】 彫刻 「空間を使って表現しよう」 ・抽象への誘い ・素材と向き合う ・作家の手法「青木野枝」 ・不思議な空間を作る	空間を使って表現した様々な作品を鑑賞し、自分なりの表現を追求する。		「非日常を演出する空間を校内に生み出そう」
	11				
	12	【鑑賞・表現】 絵画 「『しあわせな瞬間』を伝える」 ・漫画表現の技法 ・写真を編集する ・心の中の風景	漫画表現の良さや特徴を理解し、主題を追求しながら工夫して表現する。		「コマ割りや視点で生まれる効果を活かして表現しよう」
第3学期	1	【表現・鑑賞】 映像メディア 「校歌でミュージックビデオを作ろう」 ・アニメーションの歴史 ・写真撮影の基本 ・ミュージックビデオを作る	写真撮影や動画編集における表現の工夫を理解し、曲のイメージを豊かに伝える映像を作る。		「絵が動くことの歴史や意味を探ろう」 「映像の力で校歌の新しいイメージを生みだそう」
	2				
	3	【鑑賞】 「人を社会を変えていく」 ・作家の手法「オラファー エリアソン」	作家の作品や考えを知り、社会と美術との繋がりが、美術の働きについて考える。		「社会と美術の繋がりは？」

※行事等で変更になる場合があります。

令和5年度「美術Ⅲ」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
3	普通科文系	芸術	美術Ⅲ	2	選択
教科書	高校生の美術 3				
副教材					

学習の目標	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現技法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができるようにする。	造形的な良さや美しさ、独創的な表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を働かせて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術文化を尊重し、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合			
主な評価方法	作品（途中段階、完成段階）	エスキース、ワークシート等	活動中の取組状況

履修上の注意及び学習のアドバイス	実習が中心の授業となります。指示された画材は各自で準備してください。内容に応じて、他の専門科目と展開授業を行います。エスキースや資料集め、動画視聴等の予習が必要な場合があります。指示に従って事前準備をしてください。
------------------	---

※備考 二高ICEモデルとは？	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの		
	Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる	Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考査	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	①自分らしさの発見 ・美術と自分を分析する12の質問	●自己の美的価値観を形成している背景にある、文化的、社会的な状況や環境、条件などを調べたり、将来の展望について検討したりすることができる。 ●考察したことを踏まえて、自己アピール文を作成することができる。		・「自分らしさ」とは一体何？自分と美術や美術文化は今後どのように変化していくだろうか。
	5	②課題研究 ・独自のテーマによる探究と発表	●文献等での調査や研究を通して、作品や作家、表現の特徴や意義などの理解を深める。 ●必要に応じて、材料や用具の特使を生かしたスケッチやデッサンなどを描いたり、デザインをしたりすることができる。 ●研究したことをレポートにまとめ、発表することができる。		・絵画、彫刻、デザイン、映像メディアなどの第一線で活躍する人に求められる資質や能力とは何だろうか？
	6	②課題研究 ・独自のテーマによる探究と発表	●文献等での調査や研究を通して、作品や作家、表現の特徴や意義などの理解を深める。 ●必要に応じて、材料や用具の特使を生かしたスケッチやデッサンなどを描いたり、デザインをしたりすることができる。 ●研究したことをレポートにまとめ、発表することができる。		・絵画、彫刻、デザイン、映像メディアなどの第一線で活躍する人に求められる資質や能力とは何だろうか？
	7	③自分らしさを伝えるポートフォリオ	●①②で研究した内容の根拠となる資料などを精選し、他者に分かりやすく伝える工夫について理解を深める。 ●ビジュアルデザインの視点も踏まえてポートフォリオにまとめることができる。		・自分の世界観や経験を伝える「必要十分」の要素とは？
第2学期	9	④鑑賞レポートをプレゼンしよう	●絵画・彫刻、デザインなど興味を持った作品を鑑賞したレポートをプレゼンテーションし互いに鑑賞・評価する。		・どのような視点をもって鑑賞すれば良いか？おすすめポイントとオリジナル鑑賞法は？
	10	⑤情報を視覚化して表す	●情報を整理し、伝えたい内容を視覚化して、色や形を効果的に用いて見やすく分かりやすく表すためのデザインを工夫し、作品を作ることができる。		・文字情報と視覚情報の違いは何か？見た人の行動を促す効果的な手段は何だろうか？
	11	⑥身近な素材と立体表現	●立体で表された作品とそれらが置かれた場所との関係や意味などについて考え、紙や布など、身の回りにある素材を用いて、創造性豊かな立体を制作することができる。		・身の回りある素材の種類と特性をどう生かせるか？
	12	⑦見方を変えると広がる世界 ・これからの私と美術	●日々の生活の中の美術の存在を意識し、美術の役割や心豊かに生きることとに術の関わりについて考える。 ●これまでの学習を振り返り、最終的なポートフォリオを仕上げる。		・生活の中で美術と関わる場面は？美術と関わることによって人生を豊かにできるだろうか？
第3学期	1				
	2				
	3				

※行事等で変更になる場合があります。

令和5年度「書道Ⅰ」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
1	普通科・理数科	芸術	書道Ⅰ	2	必修
教科書	書Ⅰ(光村図書)				
副教材	なし				

学習の目標	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
	各単元において、基礎的・基本的な事項を理解することができる。	基礎的、基本的な事項を理解した上で、学んだ知識を活かし、構想を練ったり、工夫をしたりと自分の表現につなげることができる。	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合	3	4	3
主な評価方法	主に作品(途中段階、完成段階)		
	提出物の提出状況とその取組状況		
	単元の振り返りレポート、自己評価等		

履修上の注意及び学習のアドバイス	<p>楽しんで授業に参加しましょう。</p> <p>課題の提出期限は守りましょう。</p> <p>日頃から書に興味、関心を持ち、自己表現を思いっきり味わいましょう。</p> <p>失敗を恐れずに、いろんな作品に取り組みましょう。</p>
------------------	--

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの		
	<p>Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる</p>	<p>Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる</p>	<p>Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする</p>

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考査	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	<ul style="list-style-type: none"> ■オリエンテーション ■書道と書写 ■姿勢・執筆 ■用具・用材 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れについて説明をする。 ・書写と書道の共通性と相違を理解する。 ・姿勢や執筆法の基本を理解する。 ・用具・用材の種類や性能を学ぶ。 		<ul style="list-style-type: none"> ・用具、用材に興味・関心を持つことができたか。 ・目的に応じた姿勢、執筆法を理解できたか。
	5	<ul style="list-style-type: none"> ■楷書について 唐の楷書(特徴把握と練習) ①孔子廟堂碑 ②九成宮醴泉銘 	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な楷書古典の臨書学習により、基本的な点画や線質の表し方、用筆法・運筆法を学ぶ。 ・背勢、向勢を学ぶ。 		<ul style="list-style-type: none"> ・表現技法に関心をもち、基礎・基本を身に着け、高めることができたか。 ・意欲的に鑑賞することができたか。
	6	<ul style="list-style-type: none"> ③雁塔聖教序 ④顔氏家廟碑 	<ul style="list-style-type: none"> ・緩急、抑揚をつけて表現する。 ・蚕頭燕尾の用筆を学ぶ。 		<ul style="list-style-type: none"> ・表現技法に関心をもち、基礎・基本を身に着け、高めることができたか。 ・意欲的に鑑賞することができたか。
	7	<ul style="list-style-type: none"> 六朝北魏の楷書(特徴理解と用筆法) ⑤牛嶽造像記 ⑥鄭義下碑 	<ul style="list-style-type: none"> ・六朝北魏の用筆法を学ぶ。 ・円筆を学ぶ。 ・方筆を学ぶ。 		<ul style="list-style-type: none"> ・表現技法に関心をもち、基礎・基本を身に着け、高めることができたか。 ・意欲的に鑑賞することができたか。
第2学期	9	<ul style="list-style-type: none"> ■行書について (特徴の把握と用筆法) ①蘭亭序 	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な行書古典の臨書学習により、用筆法・運筆法を学ぶ。 ・各古典の表現の違いを理解し、その特徴を時代と人物を通して鑑賞する。 ・蘭亭序、王羲之について学ぶ。 		<ul style="list-style-type: none"> ・行書の基本的な用筆・運筆・字形を習得することができたか。 ・書者、書かれている内容を理解することができたか。
	10	<ul style="list-style-type: none"> ②風信帖 ■文化祭作品作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・風信帖、空海について学ぶ。 ・三筆・三跡について学ぶ。 ・作品の表装について学ぶ。 ・効果的な構成や表現方法を学ぶ。 		<ul style="list-style-type: none"> ・行書の基本的な用筆・運筆・字形を習得することができたか。 ・書者、書かれている内容を理解することができたか。
	11	<ul style="list-style-type: none"> ■漢字仮名交じりの書の学習 ①漢字仮名交じりの書の鑑賞 ②カレンダー作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・創作の準備と手順を知る。 ・用具・用材による効果的な表現方法を工夫する。 ・文字と余白の関係を理解し、全体構成を考えた表現を身に付ける。 		<ul style="list-style-type: none"> ・思いや気持ちを自らの言葉で表現することができたか。 ・効果的な構成や、表現を工夫することができたか。 ・作品から作者の意図や思いを感じながら鑑賞することができたか。
	12				
第3学期	1	<ul style="list-style-type: none"> ■仮名の書の学習 ①仮名の基本線 ②いろは単体 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名の成立と変遷、種類について学ぶ。 ・仮名の書独特の筆づかいに慣れ、基本用筆を習得する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・仮名の基本的な線質と、用筆・運筆との関係を理解できたか。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ③連綿 ④散らし書き 	<ul style="list-style-type: none"> ・連綿について理解し、技法を身に付ける。 ・連綿や散らし書きによって表現される流動美について理解する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・連綿や散らし書きについて理解し、その技法を身に付けることができたか。
	3	<ul style="list-style-type: none"> ■篆刻について 姓名印 印稿、字入れ、運刀、補刀、完成 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の姓名を字書で調べる。 ・印を彫る手順を理解する。 ・運刀、押印の仕方を学ぶ。 ・印を押し、仕上げる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・手順を理解できたか。 ・篆刻の学習い意欲的に取り組めたか。

※行事等に変更になる場合があります。

令和5年度「書道Ⅱ」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
2	普通科	芸術	書道Ⅱ	2	選択
教科書	書Ⅱ(光村図書)				
副教材	なし				

	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
学習の目標	各単元において、基礎的・基本的な事項を理解することができる。	基礎的、基本的な事項を理解した上で、学んだ知識を活かし、構想を練ったり、工夫をしたりと自分の表現につなげることができる。	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合			
主な評価方法	主に作品(途中段階、完成段階)		
		提出物の提出状況とその取組状況	
	単元の振り返りレポート、自己評価等		

履修上の注意及び学習のアドバイス	<p>楽しんで授業に参加しましょう。</p> <p>課題の提出期限は守りましょう。</p> <p>日頃から書に興味、関心を持ち、自己表現を思いっきり味わいましょう。</p> <p>失敗を恐れずに、いろんな作品に取り組みましょう。</p>
------------------	--

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの		
	<p>二高ICEモデルとは？</p> <p>Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる</p>	<p>Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる</p>	<p>Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする</p>

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考査	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	■オリエンテーション ■篆書について ①泰山刻石	・授業、教室の使い方、1年次までの書写の学習を振り返る。 ・篆書の古典について理解し、用筆、運筆、字形の取り方についても注意して臨書する。		・表現技法に関心をもち、基礎・基本を身に着け、高めることができたか。 ・意欲的に鑑賞することができたか。
	5	②石鼓文 ③金文	・金文の基本的な用筆・運筆・結構を習得する。		
	6	■篆刻・刻字について ○自分の姓を刻し、表札を作る (草稿、字入れ、筋彫り)	・表札を作成することで作品制作の喜びを味わう。 ・刻字について理解する。		・手順を理解できたか。 ・刻字の学習い意欲的に取り組めたか。
	7	○自分の姓を刻し、表札を作る (運刀、補刀、完成)	・書体横書風・構成を工夫しながら書稿を作る。 ・彫り方、色付けの表現を工夫する。		
第2学期	9	■隷書について ①曹全碑 ②乙瑛碑	・隷書の古典について理解し、用筆、運筆、字形の取り方についても注意して臨書する。		・隷書の字形や線質、用筆や運筆を理解しているか。 ・八分隷を理解しているか。 ・乙瑛碑と比較し、分析的に鑑賞することができるか。
	10	■文化祭作品作り	・効果的な構成や表現方法を学ぶ。		・効果的な構成や、表現を工夫することができたか。
	11	■漢字仮名交じりの書の学習 ①漢字仮名交じりの書の鑑賞 ②カレンダー作成	・創作の準備と手順を知る。 ・用具・用材による効果的な表現方法を工夫する。 ・文字と余白の関係を理解し、全体構成を考えた表現を身に付ける。		・思いや気持ちを自らの言葉で表現することができたか。 ・効果的な構成や、表現を工夫することができたか。 ・作品から作者の意図や思いを感じながら鑑賞することができたか。
	12				
第3学期	1	■草書について ①書譜 ②十七帖	・草書の古典について理解し、用筆、運筆、字形の取り方についても注意して臨書する。		・知的側面からの理解ができているか。 ・基本的な点画や線質の表し方、用筆・運筆の関係を理解しているか。
	2	■仮名について ①高野切	・高野切を学ぶことで、平安期の仮名の格調の高さを知る。 ・名筆の鑑賞を通して日本の伝統的な書的美を感じる。		・古筆の美を発見しようと心がけているか。 ・日本の伝統的な書的美を感受し、自己の表現方法を工夫したか。
	3	②三色紙	・1年次で学習した散らし書きの技法を再度確認する。		

※行事等で変更になる場合があります。